

氏名	朱 粵 明		
学位の種類	博 士 (商 学)		
学位記番号	第 4688 号		
学位授与年月日	平成 17 年 3 月 24 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当者		
学位論文名	多国籍自動車企業の中国における事業展開に関する研究 その分業体制の形成を中心に		
論文審査委員	主 査 教 授 坂 本 清	副主査 教 授 鈴 木 洋太郎	
	副主査 教 授 石 井 真 一		

論 文 内 容 の 要 旨

近年、中国自動車産業に大きな躍進が見られた。例えば、2003 年の自動車生産台数は前年比 36% 増の 444 万台余にのぼった。この中、乗用車の増加はより急激であった。乗用車分野では多国籍自動車企業の影響力が一番強く、それが中国自動車産業成長を支える源泉となっている。本論文は、多国籍自動車企業の中国における事業展開を、その分業体制の形成を中心に研究する。

研究にあたってまず、多国籍自動車企業がもつ三つの側面から分業の特質を抽出し、これを視点として後の分析作業に与える。一方、中国経済の発展段階に依拠して多国籍自動車企業の事業展開プロセスを三つの段階に設定してかかる課題を分析していく。

第一段階は主に 1980 年代の期間であった。この段階に多国籍自動車企業の中国市場への国際展開（国際分業）は主に技術提携、つまり、国際貿易（技術と部品の輸出）によるものであった。また、現地生産、つまり、多国籍自動車企業の生産機能の国際的分業を行なっても少数所有の出資形態をとる傾向が強かった。これは、当時中国市場需要の低さや厳しい現地経営状況などの背景があって、リスク回避的な経営行動が選好されていたためであった。このため、部品の調達も主に多国籍自動車企業の海外拠点に依存していた。

主に 1990 年代の第二の段階では、中国自動車市場の需要の拡大などを背景に、合併企業設立による、多国籍自動車企業の中国への生産機能の国際的展開が主流になってきた。また、合併企業に対する出資比率も高くなってきた。つまり、1980 年代のそれとは対照的に現地の合併企業や市場に対する支配が強まった。自動車の開発においても、上海 VW のように、現地生産拠点の自動車のモデルマイナーチェンジの実施にあたって、VW の主導で行なわれ、研究開発の国際分業の構図を呈し始めた。一方、中国部品企業の能力増強や外国自動車企業の部品産業への活発な市場参入によって、部品の国産化が高まり多国籍自動車企業の中国生産拠点における部品調達は主に中国内で行なうようになった。90 年代末になると、WTO への加盟を背景に、規制緩和による新規市場参入の活発化や、販売機能の回帰と現地経営資源の合理化によって、中国自動車産業の再編過程が大きく動き出した。

2002 年の WTO 加盟で、新たな段階に入ってきた。需要急増による市場の好調に対処するために多国籍自動車企業と中国側合併相手との間の協力関係はより緊密になり、中国自動車産業における統合化は多国籍自動車企業の力を借りながら進められている。中国における生産拠点は研究開発、部品調達、生産、販売などの面で一層多国籍自動車企業の国際分業体制に統合されつつ、現地化と国際化が同時に推し進められている。多国籍自動車企業は製品市場、製品開発、部品調達などの分野において大きな支配力をもっており、これらが中国市場の立地的優位と結合して中国自動車産業の急成長をもたらしている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、近年の中国自動車産業の発展過程を、多国籍自動車企業の分業体制の形成過程として、すなわち、一方における多国籍自動車企業の参入と、他方における広範な関連領域を包含する自動車分業体制の形成が中国においてどのように展開されてきたのか、いわば、多国籍企業論と分業論の統合という視角から中国自動車産業の発展過程を総合的に理論化するという、これまでにない意欲的かつ創造的な論文である。

本論文は、序章、終章を含め全8章から構成されている。第1章では、分業の本源的意義、多国籍分業論、自動車企業の分業論について、古典理論から現代理論に至る詳細な先行研究レビューを行い、現代自動車企業の分業論としての位置づけを明確にしている。第2章では、欧米日韓多国籍自動車企業の中国参入の歴史的プロセスとその特質を、中国自動車企業の発展過程との関連で解明し、第3章において、これら多国籍自動車企業が、部品供給、販売、アフターサービスなど、どのようにして国際・国内分業体制を構築したか、そのプロセスを個別企業の事例をもとに詳細に分析している。オリジナリティのある優れた章となっている。第4章は、主要な多国籍自動車企業の中国展開の特質についての多数の事例研究に当てられており、とりわけ上海VWについて、その分業構造と管理体制が詳細に分析されている。第5章では、以上のような多国籍自動車企業の展開が中国自動車産業にもたらしたものは何かについて、これを技術発達、雇用と人材育成、生産システム、収益などから分析した上で、事業展開の成功例と失敗例について比較研究を行っている。第6章は、WTO加盟以降の産業環境の変化と多国籍自動車企業の対応について分析する。すなわち、第1に、2004年「新自動車産業政策」と多国籍自動車企業の分業構造へのインパクト、第2に、環境政策の変化と多国籍自動車企業の戦略車展開、第3に、民営中国企業の台頭と中国自動車企業の国際展開など、多国籍自動車企業の事業展開に質的变化が現れ始めていることに注目する。そして、結論として、T型フォードに始まる第1の変動、1960年代のヨーロッパにおいて展開された「製品の多様化」をめぐる第2の変動、リーン生産方式による第3の変動、これら3つの変動に続く第4の変動が21世紀の遅くない時期に中国で起こるであろうと展望するのである。

以上が本論文の要旨であるが、本論文の評価されるべき点は、第1に、分析のフレームワークにおけるスケールの大きさである。著者は、中国に展開する多国籍自動車企業が、一般の企業、自動車企業、多国籍企業という3つの性格を有することをふまえ、これらを古典から現代への理論的枠組みの中で、分業論、自動車産業論、多国籍企業論の統合的展開として位置づけ、中国における多国籍自動車企業の分業体制の形成・展開のプロセス、中国自動車産業の発達過程と現状、そして中国の政策的課題にいたる広範な領域をこうしたフレームワークから一つの論文にまとめ上げた意義は大きい。第2に、こうした研究には高度の理論的研究と実態研究とが求められるが、先行研究分析を始め、本論文の理論的水準は高く、また欧米日韓多国籍自動車企業の比較研究がきわめて詳細に行われるなど、本論文全般にわたって著者の研究の幅と水準の高さを読みとることができる。第3に、事例研究を重視し、多くの箇所事例による説明がなされ、分業体制が具体的に理解し易くなっている。とりわけ、上海VW、第一汽車VWの実態調査に基づく実証研究は高く評価できる。

なお、問題点を挙げるとすれば、本論文のスケールが大きいことが、逆に議論すべき課題を若干広げすぎていることである。しかしながら、その点が本論文の価値に関わることはないことはいうまでもない。以上、審議の結果、審査委員会は、一致して本論文が博士(商学)授与に値すると判定した。